

越前市も決して対岸の火事ではない

将来に不安広がる奈良市政

増え続ける市の借金 大型プロジェクトが財政を圧迫

平成17年(2005年)10月1日に武生市と今立町が合併し、誕生した『越前市』。合併から10年が経過する平成

26年に奈良俊幸市長のもと「半世紀に一度のまちづくり事業」が始動。以来、当初予算の一般会計総額が4年連続の増加となり、今年度は過去最高の371億1600万円となった。合併前の平成元年度の歳出予算は、武生市と今立町を合わせ220億円、15年度は292億円、合併後も

平成17年(2005年)10月1日に武生市と今立町が合併し、誕生した『越前市』。合併から10年が経過する平成26年に奈良俊幸市長のもと「半世紀に一度のまちづくり事業」が始動。以来、当初予算の一般会計総額が4年連続の増加となり、今年度は過去最高の371億1600万円となった。合併前の平成元年度の歳出予算は、武生市と今立町を合わせ220億円、15年度は292億円、合併後も

歳出は増え続け、28年度はさらに増え359億円となり、本年度は371億円と増加の一途を辿る。総額371億円の内訳をみると、職員数が合併時741人から590人と減少しているが、人件費は30年度予算で約45億円、予算の12・2%を占める。借金や利子の支払いに要する公債費は40・6億円と10・9%を占め、財政早期健全化基準(イエローライン)に近

づいている。新たな借金、市債発行61億円は歳入の16・5%を占め、30年度は赤字市債を発行し、20億円の借金を上積みした。一般会計に占める地方債残高は30年度末481億円を見込み、歳入に占める公債費比率は年々増える。下水道など特別会計260億円、水道事業など企業会計28億円の市債発行残高を合わせると768億円の借入金(地方債残高)がある。平成30年11月10日現在の借金が驚くなかれ92万3000円。

平成15年度の地方債残高は04億円、武生市が304億円、合併後

